

令和2年度第地域福祉推進会議

会議概要

日 時：令和2年8月18日（火）13：30～15：30
場 所：山崎本社みんなのあいづラザ 1F 多目的室
参加者：23名 ※事務局等を含む
（スタッフ：8名、聴講者：1名）



1. 趣旨説明

【福祉保健部福祉総務課】

～はじめに、この会議のねらいについて、全体で共有しました～

この会議では、参加した部署が、ときに単独で、ときに連携して「暮らしの質を高める」取組を実施・改善していくことを目指しています。このため、地域の現状や暮らしの課題を共有する情報提供と併せて、所管する分野を超えてお互いの取組について理解を深め、必要に応じて柔軟に連携できるように意見交換の時間を設けた会議内容としています。また、地域福祉の推進に向けた、取組状況を他所属とも共有することで、地域福祉とのかかわりについて理解し、それぞれの部署が所管する分野における関連項目を明らかにするとともに、実践へ移すことを目的としています。私たち行政は、市民の「暮らしの質を高める」プレーヤーとして、何をすべきか？分野を超えて出会い、具体の動きにつながる、ざっくばらんな対話の時間を通じて考えていきたいと思います。また、この会議での議論は、次年度以降の実践も見据え、今年度策定する「第3期地域福祉計画」にも反映します。

2. 相互理解

【コーディネーター：特定非営利活動法人
ひろしまジン大学 平尾 順平】

～続いて、現在担当している業務の中で、「地域福祉」
に関係しているものについて考えました～

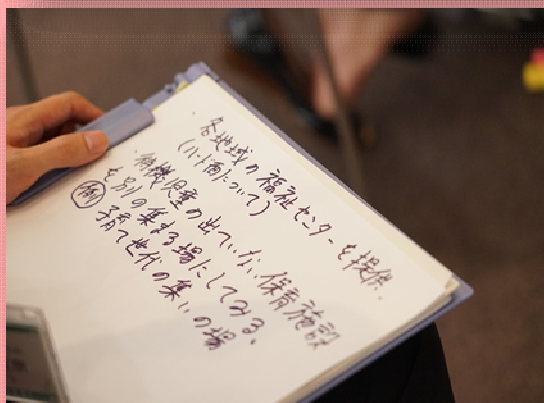
【参加者と地域福祉の関わり】

困窮者支援のネットワークを通じて地域づくりを担う／協働の視点に立って協働という手法を使って取り組む関わり方／多文化共生の視点も大事／居住支援協議会／地域自治組織の支援（基礎体力づくり＝つながり）がミッション／健康づくりも地域福祉も「地域」に関係、担い手が重複／顔の見える関係づくりと介護予防のための白菜体操／ボランティアによって地域に関わるポイント制度／ダイバーシティ経営／総合計画・総合戦略・まちづくりの計画で福祉は大きな柱／障害者施設の建設では地域への説明が不可欠／待機児童対策などの保育ニーズへの対応…

（※一部抜粋）

【コーディネーターまとめ】

多様な部署が集まったからこそ、あらゆる角度から地域福祉を見つめることができました。相互理解を通じて、地域福祉の重要なキーワードが多くあったと思います。



3. 情報提供



「地域福祉」を身近に感じるために、昨年度、実施した「はつかいち暮らしのことゼミナール」(通称「ことゼミ」※)を題材に、地域福祉についてイメージを共有しました。

※暮らしのことゼミナールとは、暮らしを今よりもちょっとだけ豊かにするために、仲間と学びあい、小さくやってみる場のことです。



アドバイザーから解説

【アドバイザー：県立広島大学 講師 手島 洋】



地域福祉はもともと、高度経済成長の終わり頃、公害や過疎化により、核家族化が増加するなかで、従来の暮らしができなくなった、といった問題への対応として「福祉のまちづくり運動」として始まりました。その後、行政も福祉国家を目指すという方向になり、課題解決システムづくりに力を入れることが、主流な流れとなりました。しかし、福祉コミュニティづくりが不要になった訳ではありません。「仕事」ではない、インフォーマルで自発的な取組は、地域を変えるほどの力はないかもしれませんが、制度や仕組みからこぼれた問題に目を向けるきっかけを与えてくれます。そういった意味でも、「ことゼミ」の小さな実践は重要な取組だったと思います。



4. 意見交換(グループワーク)

これまでの相互理解や情報提供を踏まえた意見交換を行いました。3～4人のグループに分かれて、地域福祉のテーマに対して「行政としてできること」を担当業務や所管業務との関わりから考え、全体で共有しました。

【テーマ：PTAのなり手がいない】

社会参加を求める人材(生活困窮の求職者など)と地域に必要な人材をマッチング(働く場の提供)してはどうか？

【テーマ：身近で集える場所がない】

保育園などを、地域やニーズの変化に対応して、単一の施設ではなく、先を見据えて使用できる施設に変えていく。

【テーマ：学校に行けない子どもがいる】

支援を行う団体の高齢化などの現状も踏まえ、学びの場を学校に限定せず、地域の中で学習支援を行い、人との新たな関係構築を目指す。

【テーマ：子育て中に孤立を感じる】

広報誌にお悩み相談コーナーを設け、専門家のアドバイスを掲載するほか、地元事業者へ、育休取得や従業員のネットワーク構築を促す。

【テーマ：備蓄食料品の賞味期限が近い】

消費というねらいで、国際交流協会や市の職員を対象に試食会を開催してみる。また、フードバンクやこども食堂の食材として提供する。



アドバイザーからまとめ

【アドバイザー：県立広島大学
講師 手島 洋】

「あれができない」「これができない」といった否定的な意見ではなく、前向きな取組が多く聞かれました。自分の担当業務からは、あらゆることを豊かに考えられたようですが、「他の部署と連携する」といった部分の議論は、これからに期待します。「市民の暮らし」は行政視点では、縦割り・制度別ですが、当事者である市民からすると、明確に分かれているものではありません。そう考えると、行政が、部署を超えて横のつながりや、連携を深めることは、「市民の豊かな暮らし」につながるのではないのでしょうか？